

令和3年度 第2回多摩市まち美化推進協議会 議事要点録

○日時：令和3年10月20日（水） 14時00分～15時30分

○場所：多摩市役所東庁舎会議室

○出席者

- ・委員：小山会長、熊澤委員、組澤委員、渡邊委員、馬渡委員、横山委員、堀米委員
- ・傍聴：なし
- ・事務局（多摩市環境部環境政策課）：佐藤環境政策課長、斎藤環境政策担当主査、久保田主任、豊泉主事

○議 事

- 1 多摩市まちの環境美化条例表彰者の決定について【資料1】【参考資料1】
- 2 令和3年度秋のまち美化キャンペーンについて【資料2】
- 3 海洋プラスチックごみ問題について【資料3】
- 4 今後のスケジュールについて【資料4】
- 5 その他

開会

佐藤課長より挨拶

議事1 「多摩市まちの環境美化条例表彰者の決定」について

会長： 本日はご多忙のところ、多摩市まち美化推進協議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

それではさっそく次第の1番目、「多摩市まちの環境美化条例表彰者の決定」について、事務局から説明をお願いします。

事務局： お手元の1ページの【資料1】・ぺらの紙の【参考資料1】をご覧ください。

【資料1】には今回推薦のあった11団体が、参考資料1には表彰基準が記載されております。この11団体はすべて【参考資料1】別表にあります表彰基準を満たしておりますので、事務局としてもこの11団体を推薦したいと思います。

～多摩ドリーム同好会からライオンズプラザ多摩センター園芸ボランティアの会まで紹介～

以上で説明を終わります。

会長： ありがとうございました。ではみなさんいかがでしょうか？

ご質問やご異議等がなければ拍手をお願い致します。

——全員拍手——

会長： それでは、当協議会としては、資料1に記載する11団体を選出します。

事務局： 分かりました。事務局で決定の手続きを致します。

また、表彰式につきましては、令和3年12月19日（日）10時00分から、多摩市消費生活フォーラム&エコ・フェスタ2021の中で行う予定です。会場はベルブ永山視聴覚室となります。

会長： 特にご意見等無いようであれば、令和3年12月19日（日）ベルブ永山で行われる予定の多摩市消費生活フォーラム&エコ・フェスタ2021内で表彰式を行う事とします。

議事2 令和3年度秋の「まち美化キャンペーン」について

会長： 続いて次第の2番目、令和3年度秋の「まち美化キャンペーン」について、事務局から説明をお願いします。

事務局： お手元の2ページの【資料2】をご覧ください。

——資料2——

1. 目的から8. 新型コロナウイルス感染症対策まで説明

会長： ありがとうございました。次第の2番目、令和3年度秋の「まち美化キャンペーン」について、何かご質問はありませんか。

委員： 集合場所については何かご説明があるのでしょうか

事務局： いずれの駅も改札前にのぼり旗をたてておきますのですがすぐ分かると思いますが、聖蹟桜ヶ丘駅だけは少し改札から離れた西口の交番前となりますのでご注意ください。

会長： みなさんいかがでしょうか？

それでは、令和3年度秋の「まち美化キャンペーン」についてはこの内容で決定といたします。

議事3 海洋プラスチックごみ問題について

小山会長： 続いて次第の3番目、「海洋プラスチックごみ問題」について、事務局から報告をお願いします。

事務局： 「海洋プラスチックごみ問題」について、ご説明します。

【資料3】をご覧ください。

多摩市では昨年6月に議会と共同で気候非常事態宣言を行いました。世界では近年、巨大化した台

風などの地球温暖化が原因でないかと思われる問題が各地で起こっています。アイスランドの氷河も解け始めていて、海面の水位も年々上昇しています。このまま気候問題が進展していけば、次の世代の人達は今よりも厳しい地球環境にさらされてしまい、やがて人間の力ではどうにもなくなってしまうと専門家は警告しています。プラスチックごみ問題は海洋プラスチック問題とつながっていて、また気候問題とプラスチック問題はきってもきれないつながりを持っています。まちでゴミを拾うというようなまちをきれいにする活動は実は地球を救う取り組みであるとも言えます。今日、この問題を取り上げさせていただいたのは来年以降のまち美化の取り組みの中で皆さんと一緒にできる取り組みはないかと考えたからです。今日はまず頭出しをさせていただきますので、何か皆さんからいいアイデアがあればご意見をいただければと思います。

それではまず、資料3の①海岸のごみはどこからきたのかという図をご覧くださいと思います。この資料は環境省が作成したものになりますが、実は海ごみの7割は川から流れてくると言われています。

私たちの暮らしの中で、レジ袋やペットボトル、ストロー、弁当の容器など、数えきれないくらい様々なプラスチック製品が、日々、大量に消費されています。こうしたプラスチックがごみとして廃棄され、河川を通じて海洋に流入し、深刻な海洋汚染を引き起こしています。

②のごみの漂着した海岸の図を見て頂きたいのですが、プラスチックのごみが見られますよね。

プラスチックの生産量は、世界で増え続けていて、2015年には4億トンを超えています。海洋中には1億5000万トンを超えるプラスチックが存在し、年間800万トンのプラスチックが新たに流入しています。このペースで進むと、2050年には海洋中のプラスチックの重量が魚の重量を上回るという予測もあります。

③の海洋生態系への影響の図を見て頂きたいのですが、海洋プラスチックは800種を超える生物に影響を与えていて、毎年100万羽の海鳥、10万匹の海棲哺乳類、ウミガメ、そして魚が、プラスチックの影響により命を落としていると言われています。

③の写真でもアホウドリの死骸や、漁網にからまった動物やウミガメの写真があると思いますが、ショッキングな写真ですよ。

また、ごみに付着する化学物質が生物の体内で影響を与える可能性もあります。放置されたプラスチックごみは劣化して粉々になり、5mm以下の細かなマイクロプラスチックとなります。マイクロプラスチックは油になじみやすく、海を漂う間に化学物質を吸着します。その中には有害な化学物質も含まれます。マイクロプラスチックはプランクトンを餌とする魚介類に取り込まれ、それを食べる海鳥の体に蓄積されます。食物連鎖により、マイクロプラスチックに付着した有害物質も濃縮されるため、海鳥だけでなく海洋生態系全体への大きな脅威となっています。

③の図の□の中にも記載されていますが、健康を害した魚などの海洋生物を人間が食べることで人間への健康への影響も心配されています。

そこで

プラスチックごみによる海洋汚染をくい止めるために、私たちにできることを考えてみたいと思います。

11 ページをご覧ください。

①まず、リデュース : ですね。

プラスチックごみによる汚染を食い止めるには、使い捨てプラスチックの使用をできるだけ減らすことが大切です。外出するときには、ペットボトルではなくマイボトル（水筒）を持っていきましょう。買い物では、レジ袋をもらわずに、マイバッグを使いましょう。使い捨てのスプーンやストローをもらわない、旅行先で使い捨ての歯ブラシやシャンプーなどのアメニティを使わないなど、少し気をつけるだけでできることがあります。

プラスチック製スポンジの代わりに天然素材のスポンジを使う、プラスチックではなくビン入りの製品を選ぶなど、プラスチックに代わるものがあれば、代替品を使いましょう。大量生産、大量消費社会を変えていくには、プラスチックに限らず、モノを使い捨てせずに大切に使うことが重要となってきます。

そしてここがまち美化推進協議会としても一番貢献できる場所だと思いますが

2 番目に

②ごみを拾おう : ということですね。

全国各地で、さまざまな団体によるごみ拾い活動が行われています。多摩市でもよみがえれ、大栗川を楽しむ会などの大栗川の清掃活動をしている団体や、グリーンバード中央大学チームが乞田川にごみが流れ出ないために多摩センター駅周辺を毎月 1 回清掃活動をおこなっています。また春と秋のまち美化キャンペーンなどごみを拾う活動がたくさんございます。委員の皆様もぜひ、ご家族や、友人などにごみを拾い活動に参加していただくようにお声がけしていただくようよろしくお願いいたします。

3 番目に

③広げよう : ということですね。

この問題を解決するには、プラスチックに依存する社会を変えていくことが必要です。消費者である私たちが行動に移すことが、社会を変える第一歩になります。量り売りや詰め替えサービスなど、プラスチック削減に積極的に取り組む企業やお店で買い物をし、応援しましょう。

使い捨てプラスチックを作らない・使わないように事業者に働きかけたり、プラスチックに頼る社会を変えるような政策を国に提言するNGOや団体の活動に参加し、支援することも、海洋プラスチック問題を解決する大きな力になります。

一人ひとりにできることは小さくても、多くの人が取り組むことで、社会が変わっていきます。プラスチックの使用を減らすために何ができるか、考えてみましょう。そして、この問題を家族や友達に伝えて、行動する仲間を増やしていきましょう。

～乞田川、大栗川のマイクロプラスチック調査の結果について～

12 ページをご覧ください。

多摩市でも令和2年7月に市内を流れる乞田川、大栗川のマイクロプラスチック等の流出実態調査を実施しました。概要は以下の通りです。

1. 実施概要

- (1) 実施日 令和2年7月28日
- (2) 実施主体 一般社団法人ピリカ ※協力：多摩市環境政策課
- (3) 実施場所 乞田川と大栗川の4地点
(多摩センター東通り付近、和田公園付近、新大栗橋付近、交通公園付近)
- (4) 調査手法 バッテリー駆動のスクリーナーで水面付近の水をネットに流し込む方式の採取装置を使用し、プラスチック候補粒子の採取を実施

2. 調査結果のポイント

- (1) 4地点中、全ての地点でマイクロプラスチックを採取
 - ・人工芝、コーティング肥料、発泡スチロール等の製品が見つかる
 - ・多摩市の河川からも、海洋汚染の原因となるマイクロプラスチックが流れていることが判明
- (2) 全プラスチック38個の破片中15個（全体の約40%）が人工芝
 - ・個数では人工芝の割合が多いが、質量的にはポリウレタン等の成分も多く存在しており、原因となるものが多数存在している
- (3) 全プラスチック38個の河川ごとの内訳。
 - ・1 m³当たりの平均個数は約2.7個
 - ・一番少ない地点は、多摩センター東通り付近（乞田川）で1 m³当たり0.71個
 - ・一番多い地点は、新大栗橋付近（大栗川）で1 m³当たり6.37個
- (4) 重量比では、複数の成分のプラスチックが見つかる
 - ・ポリウレタン、ポリスチレン、ポリエチレン、ポリプロピレン、ナイロン

以上で説明を終わります。

小山会長： ありがとうございます。「海洋プラスチックごみ問題」について何かご質問はありませんか。

事務局：感想でもなんでもいいのでお願いいたします。

委員：リユースなどの意識はだいぶ浸透してきていると思いますので、逆にごみを出す側の方を考えてみたらいいと思います。例えば量り売りなどを行っている企業に対して多摩市で補助金を支給するといった売側の意識を高める制度を考えたらいいのではないのでしょうか。

事務局：多摩市でもリーダーシップを取って行っていかなくてはいけない取り組みがあると思います。いただいたご意見を参考にさせていただきます。

委員：昔はお鍋をお店に持ってきてお豆腐を買ったり、お酒なども量り売りをしていました。今はものがあふれていますから、昔のもののなかった頃を思い出して、節約することが大事ではないでしょうか。その様な考え方が市民に浸透していけば良いと思います。

事務局：ありがとうございます。小中学校の生徒さんをお持ちの方に質問なのですが、地球温暖化などの問題は今の子供達にも関心があるのでしょうか。

委員：私の子供の今度の学芸会では演目で環境を題材にしたことをしようと言っています。テレビなどではSDGSの言葉が良く聞かれるので、子供達も知っていると思います。例えば、今回のような資料を子供でも分かるような形の資料にして、朝の朝礼で先生たちが話したりする取り組みなんかは効果があると思います。

事務局：そうですね。今、環境問題のドラマなどもやっていて若い人たちが環境問題を考えるきっかけになったなんて話も聞きます。来年、何か環境問題を解決するための新しい取り組みができないかと考えています。委員の皆様も、何かいいアイデアがあれば、個別でも構いませんので、今後ご意見いただければと思います。

委員：まち美化キャンペーンで配るティッシュにプラスチックが使用されているのは良くないことと思います。

事務局：そういったところから今後、意識を変えていきたいと思っています。

議事4 今後のスケジュールについて

小山会長：最後に、今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

事務局：それでは、13ページの【資料4】をご覧ください。

今後のスケジュールにつきましては、表にお示ししたとおりとなります。

なお、次回の第3回の協議会の日程につきましては令和4年2月頃を予定しております。

第3回の協議会の日程の意向調査については後日通知を送付させていただく予定です。

新型コロナウイルスの感染状況によっては書面開催となる可能性がございますが、その際も通知させていただきます。

以上で説明を終わります。

小山会長：ありがとうございます。

全体を通して、何かご質問やご意見等がありますか？

無いようであれば、これにて令和3年度 第2回多摩市まち美化推進協議会を終了したいと思います。

本日は、長時間にわたり、貴重なお時間、ありがとうございました。

(15時30分 協議会終了)